

出前講座報告書

実施日時	2025年3月15日 9:30~10:50	主催者名	津軽保健 地域生活支援センターぴあ す わたすげの会
講師名	小野孝太	会場名	津軽保健生協会館
テーマ	精神薬の飲み方(かかりつけ薬剤師・薬局)		
参加人数	15人	報告者	小野孝太

【講座内容】

○向精神薬

・脳の中樞神経系に作用し、精神機能に薬効を示す薬(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、抗てんかん薬、睡眠薬、抗パーキンソン薬、中枢刺激薬)

○副作用

・抗うつ薬、抗不安薬(吐き気・下痢、不眠・眠気、口の渇き・便秘)、気分安定薬(食欲低下、振戦、昏睡・錯乱)、抗てんかん薬(肝機能障害、高アンモニア血症、眠気)、睡眠薬(眠気残、悪夢、睡眠時麻痺)、抗パーキンソン薬(悪心・嘔吐、不随運動、幻覚・せん妄)、中枢刺激薬(食欲低下、不眠、体重減少)、抗精神病薬(性機能異常、起立性低血圧・頻脈、体重増加)

○拒薬(本人が内服を拒否すること)

・危険性(症状の再燃、離脱症状、内服していないことによる不安感)
 ・服薬拒否がおこる原因(薬の必要性が理解できない、薬がうまく飲み込めない、副作用が出ている、不信感・不安感を抱いている)
 ・具体的な対策(具体的な目標を示して説明する、患者の状態を詳しく聞き取り・観察し、説明してあげる、信頼関係を築く)

○かかりつけ薬剤師

・薬・健康・介護に関する様々な知識・経験を持ち、担当患者さんのニーズに沿った相談ができる薬剤師(違う病院の薬もまとめて把握、指名できる、24時間対応、処方医との連携、薬以外の相談でもOK)

○服薬支援例

・薬の管理ができない・オーバードーズ、自殺願望・同じ悩みを何度も説明するのが辛い
 ・支援内容(お悩み相談、一包化、24時間電話対応)

【質問内容】

・うつ病薬とビールの間隔、内服できない時は注射もある、他の人の薬は飲まない、飲み忘れ防止(ケース)

<気づいたことや今後の教訓など>

前半の副作用紹介スライドが単調で長尺であったため少々退屈な時間を提供してしまったかと反省しています。スライドおよびノートを再度精査して、次回プレゼンに活かしたいです。

